

国際戦略委員会（第1回）での主な御意見

科学技術・学術政策局 参事官（国際戦略担当）付

令和3年4月23日

- Society 5.0やSDGs等の理念、ビジョンにつながり、交流・協力相手先に響くナラティブ(物語)があるか
- 未来社会像(Society 5.0、DFFT等)を打ち出し、国際社会とこの社会像を共有・連携していくこと
- 事業成果の測定指標は国際交流・協力の目的に照らして適切か
- グローバルな多様性を取り込んで研究力、国際競争力を強化すること
- 先端重要分野を含む技術に係る国際ルール策定において、その国際交渉で主導権を確保すること
- 世界的な緊急事態等において、自国のみで一定の対処が可能な研究の厚みは確保できているか
- 広く学生や若手研究者(日本人、外国人問わず)に国際的な素養を身に着ける機会を提供すること
- 世界の多様な意見や考え方が反映された研究成果が期待できること
- 地球規模課題や途上国に共通する課題の解決に向けて貢献し、その成果を社会実装すること
- 国際的な地球公共財を創出するための研究に貢献すること
- ビジネスモデルを構築し、優れた研究成果をグローバルに展開するポテンシャルが大きいこと
- 国際的な研究ネットワークにおける主要プレイヤーとなり、その中でプレゼンスを持つこと

(1) 国の科学技術力の持つ戦略的意義が変わりつつある中で考慮すべき観点

- 既存の国際協力事業について、双方に裨益するSTI化を進めているか
- 人と社会への理解を深め、相手国に裨益する価値を創出すること
- 我が国の独自性と他国の独自性が相補的な関係となっているか
- 長期に渡って維持される可能性の高い研究者・機関同士の交流関係を構築すること
- 長期的な視点を組織的に共有するなどにより、交流・協力関係を長く維持・発展できるか
- 我が国にとって先端重要分野の技術なのか、またその戦略的意義に照らし適切な連携相手なのか
- 社会実装を目指す上でのリスク(規制や文化、公正性等)を把握しているか、またそれは受容可能か
- 社会実装を目指す上で、ビジネスモデル構築や企業への橋渡し等、持続的に実装される仕組みが検討されているか
- 創出された知的財産の管理や標準化、データ管理等の方向性について意見の大きな相違はないか

(2) With/Postコロナにおける国際交流・協力の在り方

- リモートで実験可能な装置・設備の普及等によりオンライン化は一層促進
- 新たな関係構築や研究フィールドの現地体験等、渡航は必要に応じて活用